

学 年 通 信 第四号

平成22年12月22日

明秀学園日立高等学校 第2学年



初冬の候、皆様方にはいよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。
明秀日立生(白梅)の諸君。「明るく・清く・凛々しく」の建学の精神に照らし合わせ、それに適うよう日々を過ごしていますか。白梅への道標である校訓を日々実践していますか。「やるからやる気が出る」を実感していますか。そして、挨拶や手伝いを習慣化していますか。

遅くなりましたが、第四号は第三号の続きです。三号の脇に貼り付けておくこと。
『光陰矢の如し。少年老いやすく学成り難し』諸君！思索にふけり、垣根を越えよ。

外見に逃避するなかれ

頭髪などでいまだに指導されている人達の特徴は、「学び」という内面へ向かう行為から逃げています。結果、努力するプロセスを身に付けられず、いよいよ外見に逃避します。

この期に及んでもまだこの因果に気が付かない者、上っ面、見せかけに逃避しようとする人達は、もう遅い。手遅れです。よって、今後この手の話で紙面を割くことはあるまいと思う。髪の毛だけは「無理」とか平気で言う者。本校での高校生活は「無理」です。諦めなさい。この期に及んでも諸君の精神が深奥なる内面へ向かっていない。この青春の時期に内面へ向かわず、外見に逃避している。逃避して『百錬』から逃れようとしている。果たして諸君の内なる魂は、それを本当に望んでいるのだろうか。

学ぶ力を持った者か否かはすぐに見分けがつく。その点では君達は正しい。「人は見かけで判断できます」以上の理由で、どうしても諸君の頭髪や着こなしや姿勢に目がいってしまいます。わたしの知る限り、**外見に逃避する人は、「学び」という内面に向かう行為から逃げている人**です。

諸君の後輩である1年生を見ていると、まるで去年を見ているようです。諸君は見られています。見られているから、一部の諸君に見受けられるような外見をした1年生が、現れてきました。彼等は、髪型や制服の着こなしに向けた我々の注意に対し、去年君達が返した言い訳そっくりそのままに「2年生にもいるではないか」と言っているに違いない。見せかけに逃避する2年生諸君、彼等に道義的な責任を感じることができるだろうか。我々の助言、指示、注意等の教示は、諸君がこれまでに習慣化し得なかった事柄に対するものです。習慣を持たない諸君は、恥じ入ることなく、これからも経験に基づかない言い訳、つまり理屈にはしるか、または従順を装いその場をやり過ごすのでしょうか。

もう一度だけ言って終わりにします。諸君、我々は努力せずして手に入れることのできる些細な結果、あるいは頭髪やだらしない制服の着こなしなどの外見にすがりつき、内面に向かう行為から逃避する軟弱で幼く、恥ずべき精神を鏡で凝視しなければなりません

授業を受け身にしない方法

— 自ら向上の道を閉ざしてしまう理由 —

「ネズミの脳皮質の神経応答を記録しながらヒゲを触れると、ただ触れる時よりも、ネズミが自らヒゲを動かして探りに来た時のほうが、反応が10倍ほど強い」(脳研究者 池谷裕二 11月14日付読売新聞)のだそうです。

諸君をネズミに喩えるのは甚(はな)だ失敬な話だが、我々教師はどうやら毎時間諸君のヒゲを触っているに過ぎな

いようです。諸君が自らヒゲを動かして授業を受けるようになれば、10倍理解が深まるに違いない。

今回も効果的な学習の方法を後に紹介しますが、その方法を知っただけでは効果は期待できません。実践が伴わなければ、それらを知らないことと同意となります。あるいは努力半ばである程度の効果が見えてくると、それで満足していないでしょうか。ちょっと他人よりできるようになったとか。目立つようになってきたとか。このような自己満足や他人との比較による優越感によって我々は自ら向上の道を閉ざしてしまいます。己(おのれ)と妥協する道を選ぶ者は、継続する勇氣と力が、まだ不足しているのです。継続していくには幾度も挫折を乗り越えなければなりません。乗り越えるためには、挫折するに至った事の本質を突き止め、己の弱さを受け止め、打ち克(か)たねばなりません。己と妥協する道を選ぶ事は簡単です。己をごまかせばいい。成功は勇氣と我慢強さを鍛錬(百錬)した者だけが、その代償として手に入れることができるものです。だからこそ価値があり、得難く、尊い。

— 「授業に必然性を見出す」 —

「内発的動機により授業を受ける方法」を、ここでは敢えて「授業を受け身にしない方法」と呼びます。その方がこの話題の性質には合っているからです。授業を受け身にしない方法は、前号で述べた「努力を長続きさせる方法」、つまり「努力が生きるサイクル」をつくることです。努力によってもたらされる効果の繋がりが、学習習慣を成立させます。そして、授業を受け身にしない方法その2は、「**授業に必然性を見出す**」ことです。

諸君は、何故、義務教育を終え高校に入学してきたのでしょうか。理由はいくつか考えられます。しかし、そのどれをもが外発的動機によるものでしたね。「みんな行くから」「高校くらい出ておけと言われてたから」等々。仮に外発的動機で始めたことであっても、高校生活を送るうちに自分自身を納得させるに足る意味＝「内発的動機」を見出すことができればよいのです。もう見つけましたか。

諸君の中には、この時期においても自宅でテレビを見ているのと何ら変わらない様子の人がいますね。姿勢が悪く、私語や居眠りが絶えない。授業を受け身で受けている歴(れっき)とした証拠でしょう。おまけに特に興味もないテレビ番組を漫然と見ている時の様子と変わりがないのだから質(たち)が悪い。付けっぱなしのテレビを見る気もないのに見ている時のそれと変わりがない。

こうした人達は「内発的動機により授業を受ける」という習慣を持たない自分を嘆き、謙虚になりなさい。再三述べてきましたが、学習の習慣に限らず、習慣を持たないということは、自らを動かす力を持たない、その結果努力するプロセスを放棄したまま今に至ってしまっているということです。己をごまかさず、また、ごまかされず、この冬休みに「自分自身を納得させるに足る意味」を見出し、3学期には生まれ変わった姿を見せて欲しいと願っています。自分をよく見つめ直しなさい。そして、諦めないことです。

さて、皆さん、進路の準備は着々と進んでいるでしょうか。進路の準備とは、自分が進む進路に対して必要なものを身に付けていくということです。例えば就職なら、面接の応対ができるコミュニケーション能力、一般教養、作文能力など。進学、AO、推薦なら、同じくコミュニケーション能力、小論文作成能力など。一般なら、一般試験に堪える学力が必要です。以上は、諸君にとって既に常識となった話ですが、では何故、このような試験形態になったのかを考えたことがありますか。常識となった事実には、成立の理由を問おうとしないものです。しかし、常識という衝立(ついたて)の陰にこそ事の本質が隠されています。我々は、そこに目を向ける癖を付けなければいけません。

入学試験も、就職試験も、「何故、入学したいのか、就職したいのか」を説明せねばなりません。我々が言語を獲得しなければならなかったのは、相手に物事を正確に伝え説明するためだったということは疑う余地がありません。それは今も変わってはいない。我々が口を開き、文字にすることの殆どは、自分の気持ちや行動理由の説明です。

授業でも、説明や立証に明け暮れます。教科書のどの単元も諸君が理解できるよう、言葉を尽くし物事や事象の説明や立証がなされています。人に伝える技術、表現が授業や教科書の中に溢れています。人に伝えるためにどんな表現をしているか、どんな段取りで説明しているか、勿論解く技術も。

現在の入試制度も突き詰めれば、「何故、それを望むのかを説明できる力」を有しているか、「この門をくぐるに相応しい教養を身に付けているか」を問うていることになります。何を身に付けていかねばならないのか。求められる力は、「伝える力」と「教養」という2つの要素に集約されます。それをどこで身に付けるのかといえば、もちろんその多くは「授業」にあるわけです。授業を受ける必然性を見いだせましたね。こうした視点を持って授業を受ける

ことです。一挙に視界が広がるに違いない。先生の言葉が、教科書の文章が、乾いた貝殻に水が逆(ほとぼし)るように入り込んでいくに違いない。もちろん、メモを怠らないように。自分で使ってみなければダメです。

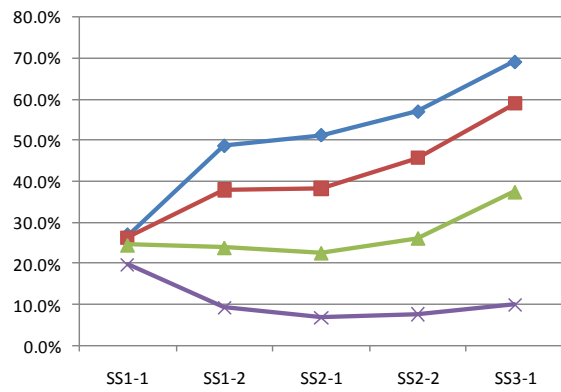
現入試制度は以前にも増してどんな高校生活を送ってきたのか、そして授業をいかに意識を持って受けてきたのかを試している内容になっていると言えるでしょう。

努力が長続きしない人に「学習習慣を身に付けなければ」というのは身も蓋もない話ですが、学習習慣を身に付けられれば、長続きするしないどころの話ではなく、一生の知的財産を得、豊穡な人生を送る術を身に付けることになりま。学習習慣を身に付けるためには「理解を助ける予習復習をすることだ」となればありきたりな話だけれど、何故学習習慣が身に付かないのか、どこで、また何が理由で努力が途切れたのか、一つひとつこれまでを振り返り、原因を究明し、対策を打たなければ、諸君が望む明日は訪れません。長続きしないのは「気合いが足りないからだ」と言ってしまえばそれまでですが、何故気合いが足らなくなるのかの洞察無しに問題は解決しません。事の本質を見極めて、己を知り、自分にあった計画を立てなければなりません。

工夫しなければ勉強ではない(その2) 量+質への切り替わり

資料提供:ベネッセコーポレーション

左のグラフは、ベネッセの各GTZ(学習到達ゾーン)において自主学習にける時間が2時間以上を占める高校生の割合です。横軸の値 ss1-1~ss3-1 は高校1年前期から高校3年前期を意味しています。諸君は、現在高校2年生の後期に位置していますから、ss2-2 となります。



例えば、諸君の時期にSゾーンにいる高校生の中で、60%近くに上る者が自主学習を2時間以上実施していることが読み取れます。

諸君、冬休みに何をやるか分かっていますね。日頃できない苦手科目、単元の克服です。受験生諸君、もうこの冬は返ってこない。全力を傾けなさい。

自信に満ちあふれた皆さんの姿を始業式で目にすることができますように。

